

R5年12月放送分
「東北防衛局における若手職員(技官)の活躍について」
(日本の防衛Q&A)
(自衛隊百科)

R5.11.22 収録

【パーソナリティー】

本日は、「東北防衛局における若手職員の活躍について」というテーマでお送りします。令和3年度に同テーマでお送りしてから数えると第6回目となります。今回も東北防衛局の若手職員2名の方に、お越しいただきましたので、いろいろとお話を伺いたいと思います。よろしくお願いたします。

【全員】

よろしくお願いたします。

【パーソナリティー】

では、はじめに自己紹介と業務内容を紹介していただけますか。

【佐藤技官】

はい、調達部建築課の佐藤です。

令和2年度に熊本防衛支局で採用となり、昨年4月に東北防衛局に転勤してきました。東北6県に所在する陸・海・空の自衛隊や在日米軍の施設の建替えや改修を行うために、設計業務や建築工事を発注し、それらを監督することが主な業務です。

具体的には、自衛隊員が勤務する庁舎や、生活するための隊舎、他にも、航空機の格納庫や自衛隊車両の車庫などの建物を作っています。

【遠藤技官】

設備課の遠藤です。

入省6年目の30歳です。平成30年度に沖縄防衛局で採用となり、今年4月に東北防衛局に転勤してきました。機械工事担当として、自衛隊施設や米軍施設の施工現場の監督を行っています。

【パーソナリティー】

お二方とも建設工場の現場で監督業務をされているのですね。
佐藤さんの所属する建築課は何名の職員がいるのですか？

【佐藤技官】

建築課は現在、課長以下11人の職員で勤務しています。

【パーソナリティー】

私は、建築と聞くとカナヅチで釘を打ったり、カンナをかける大工さんをすぐにイメージしますが、私のイメージとは違いますよね。

【佐藤技官】

はい。我々が設計して建築する建物は自衛隊施設ですので、強固で耐震性に優れた鉄筋コンクリート造や鉄骨造が多く、一般の住宅のような大工さんなどが建築する木造は、残念ながら扱っておりません。

【パーソナリティー】

なるほど。遠藤さんの設備課は何名ですか？

【遠藤技官】

設備課は現在、課長を含め17名です。設備課には電気工事、機械工事、通信工事の3つの職種がありますので、他の課よりは職員数が多いのが特徴です。

【パーソナリティー】

なるほど。そんな職場で働くお二方に仕事の「やりがい」を伺いたいと思います。佐藤さんからお願いします。

【佐藤技官】

建設工事は、発注者・受注者・工事監理者と多くの立場の人が携わっており、私は、監督官として日々、連絡調整をしながら、工事を進めています。その中で、例えば、図面に書ききれていない細かい部分をどうするかといった技術的な問題や、想定外のことが発生し予算をどういうふうに支出するのかといった金額的な問題が起こる事もあります。そういった問題を乗り越えて、工事が完成した時は達成感で満

たされます。

また、自分が手がけた施設を実際に自衛官が丁寧に使用しているところを見ると、頑張った甲斐があったなど実感でき、非常にやりがいを感じます。

【パーソナリティー】

遠藤さんはどうですか？

【遠藤技官】

私も佐藤技官と同じように思っています。

建設工事は多くの方が携わっているので、工事を進めていく中でいろんな問題が生じます。自分の想定を上回る問題が発生した際には、受注者や部隊側から情報を集め、上司と相談しながらより良い解決策を見つけていきます。

そうして建物が完成した時には、大きなやりがいを感じることができます。

【パーソナリティー】

苦勞の末に完成した建物は、監督された方はもちろんのこと、それに従事した方にとっては感慨深いものなのでしょうね。

上司に相談しながら解決策を見つけるとおっしゃっていましたが、遠藤さんの職場の雰囲気は良さそうですね。

【遠藤技官】

はい、私が所属している設備課は非常に風通しがよく、わからないことや相談事を上司に話しやすく、一緒になって問題の解決策を模索してくれます。

計画的に休暇も取得しやすく、今は仕事とプライベートの両方とも充実しています。

また、国家公務員という職業柄、転勤はありますが、研修で知り合いになった同期が全国にいるため、転勤したとしてもすぐに職場に溶け込むことができます。

【パーソナリティー】

佐藤さんの職場の雰囲気はどうですか？

【佐藤技官】

はい、建築課も職場の雰囲気は良いと思います。

広い東北地方では、職員が担当する案件も多くなりますが、日々効率化を図り、工夫しながら業務を行っています。担当する案件の中で、分からないことや判断に迷うことがあれば、上司に相談するのはもちろんですが、課内で情報を共有して、同僚に意見を聞いたり、先輩のアドバイスを参考にしています。まさに、担当や上司部下の枠を超えて、お互いに助け合うことが出来る雰囲気が建築課にはあります。

先日も、自分が担当する案件で判断に迷う事案があったので、同僚や先輩のいろんな意見を参考にしながら、課長に直接相談した事もありました。

また、建築課は普段からワークライフバランスを意識していますので、自由に休暇を取得することができ、自分の私生活を優先することもできます。

【パーソナリティー】

職場の皆さんが同じ方向を向いて、問題を一丸となって解決しようとする姿勢がうかがえる、とても素敵な職場ですね。

お二方とも、「休暇の取得」というワードが出てきましたが、休日はどうのように過ごしていますか？遠藤さんに伺います。

【遠藤技官】

はい、休日には野球観戦に出かけたり、家でゲームをして過ごしたりしていることが多いです。以前、勤務していた沖縄では観光地に出かけたりしていたので、東北でもいろいろな観光地に出かけてみたいと思っています。

【パーソナリティー】

観光地巡りは楽しいですね。

ところで、防衛省のイメージは堅くて厳しいと思う方も多いと思いますが、入省前と入省後のギャップは何かありましたか？佐藤さんに伺います。

【佐藤技官】

はい、入省前はデスクワークがメインの職場だと思っていたのですが、思っていたよりも出張が多くギャップを感じました。でも、プライベートでは中々行かないような場所にも行けるので、良い気分転換になっています。

また、私自身、まちづくりに興味があるのですが、就職活動で国家公務員のことを調べているときに、自衛隊の駐屯地や基地って小さな町だなと思いました。新たな駐屯地や基地を作る事業は、防衛局が行っているので、自分もその事業に携わってみたいという思いで入省しましたが、実際は、そのような大きなプロジェクトは滅多にないというのが、もう一つのギャップです。

【パーソナリティー】

なるほど。いつの日か、大きなプロジェクトに参加することができればいいですね。

それでは最後に、防衛省職員を目指すリスナーの方へ、遠藤さんからメッセージをお願いいたします。

【遠藤技官】

はい、防衛省の建設現場は、他では経験できない多種多様な建物が多くありますので、興味・関心をもって仕事をすることができます。また、日本の安全保障を間近で感じることができ、他にはない達成感を感じることができますので、ぜひ興味を持っていただけたらと思います。

【パーソナリティー】

本日は、東北防衛局の若手職員2名の方からお話を伺いました。皆さん、ありがとうございました。

【全員】

ありがとうございました。

【パーソナリティー】

このコーナーでは、よりよい内容にしていくため、ラジオをお聞きの皆様からご意見・ご感想を募集しております。

お聴きのコミュニティ放送局までご連絡ください。